

香川大学教育学部

附属坂出学園だより



～ 地域に必要とされる学校園をめざして～

第74号

2024.11



AI等の科学技術の急速な進歩によって社会が大きく揺らぐなか、附属坂出学園も転換期を迎えています。社会の変化に対応する先進的な教育研究の推進とともに、教員を育て地域の教育力の向上に資する研修の場としても、附属坂出学園に寄せられる期待はますます大きくなっています。さらにいえば、教育研究活動を通して、人々の真の幸福を実現するためのインクルーシブな思考を備えたイノベーション人材を育成することは、附属坂出学園の使命でもあります。子どもたち一人一人のよりよい成長をめざし、全力で取り組んでまいります。

香川大学教育学部附属坂出中学校 校長 鈴木 正行

～人が集まり、みんながつながる学園をめざして～



英語ふれあいタイム



憧れの先輩に質問！



附中生と附特支中学部生の交流

感触遊びを楽しんで

【年少児】

4月から水や砂、泡の感触に親しんできた年少児。9月は、実習生と共により楽しく、よりダイナミックな感触遊びを楽しみました。片栗粉や寒天の「ドロドロ」「ネチョネチョ」「グニュグニュ」という感触を十分に味わいながらイメージを膨らませ、お団子やかき氷、ジュースに見立てて遊ぶことに夢中になる子供たち。また、遊ぶ中で「水を入れたい」「色を混ぜたい」といろいろに試しながら遊びを展開させていく姿もありました。



うわ～！トロトロ



ゼリーみたい

子供の心につながって…

【年中児】

暑さが残る9月。子供たちは、冷たい砂や水、泥に存分に触れながらその感触を楽しんでいました。そんな子供たちにつながろうと、実習生も裸足になり砂場で楽しみ始めました。サラサラだった砂は、少しずつ水を加えていくことで、ギュッと握ると形を保てるようになっていきます。しかし、水を加え過ぎると、また崩れます。水の量の加減により感触や形が変化していくことを身体全体で感じながら夢中になって遊んでいるうちに、子供たちも実習生も砂まみれになっていました。



固まってきたよ

<真の主体的な学びへ～子供の学ぶ意欲を大切に～>

自主・自律

共生・協働

探究・創造

子供の“～したい”を大切に

【年長児】

お月見に関する手遊びや歌、絵本などを日々楽しんでいます。そこで、中秋の名月を迎えるにあたり、クラスみんなでお月見団子づくりにチャレンジしました。使う材料や道具を目にすると「早く作りたい!」「みんなで食べたい!」と、子供たちはやる気満々に。その後、実習生によるお月見の由来やお団子の作り方についての話を聞き、さらに気合いが入ったようでした。

こねる感触を楽しむ人、たくさん作ることに喜びを感じる人、大きさや形にこだわる人などいろいろです。それぞれの楽しみ方や思いが詰まったお月見団子を「美味しいね」と言いながらみんなで食べる時間は、至福のひとつでした。小さな友達や先生方から「ありがとう」と声を掛けてもらったことは、大きな自信につながったようです。日本の文化や季節感を味わいながら、もてなす喜びや協力し合うよさを感じる経験もできました。これからも子供の“～したい”を大切にかかわりたいと思います。



美味しいお団子になあれ!

つながる人・植物の命のリレー
～フウセンカズラとひまわり～

1年生の教室から見える学級園の春が終わり、少し寂しい感じがした子供たち。その学級園を華やかにしたいという思いから、「そうだ、学級園を花や野菜いっぱいにしてよう」という声があがり、「ねえ、幼稚園の時に育てたフウセンカズラの種を植えようよ」と言い出しました。実は年長の時に、「小学校に入学したらフウセンカズラの種を植える」という約束を、思い出したのです。そうと決まれば、土づくりにはじままずは、土づくりから、毎日の水やり当番に、大忙しです。そんなある日、幼稚園の青組さんからひまわりの苗のプレゼントが届きました。大事に育てたフウセンカズラとひまわりは、ぐんぐんと大きくなり、あっという間に背を越え、大きな花を咲かせ、たくさんの実をつけました。



フウセンカズラやひまわりから取れたたくさんの種は、今年よりももっとたくさんの種ぐんぐん伸びたよと大きな花が咲くようにと、次の1年生や青組さんへプレゼントをして、命のリレーをしたいと思っています。大きくなあれ、お花たち。

よりよい坂出市のために
～我ら「坂出よくし隊」～

3年生は、学校の周りを歩いた際に、道に落ちているごみに問題意識をもちました。そこで、未来学習で坂出をよりよいまちにする活動をしていこうと決めました。まず学校の周りの歩道や、商店街、角山付近にて清掃活動を行いました。また、かがわ海ごみリーダーとして活動されている先生をお招きし、海ごみの実態やその影響、海をきれいにするためにできることを教えていただき、ますます海を守りたいという思いを高めました。今後も活動範囲を広げ、環境保全以外の面からも、自分たちにできることを考え、実行していきます。



もっと坂出よくしたい



海ゴミについて教わったよ

坂出のステキ見付けた!
～とび出せ!町のたんけんたい～

2年生は、生活科で坂出のまちを探索して、見付けたステキを「坂出ステキマップ」にまとめました。3回の探索を通して、自分にとってのステキNo.1を決めました。そして、授業参観でお家の人に紹介しました。このような学習を通して、子供たちは地域の様々な場所や人と関わることで、坂出のまちやそこに住む人々のよさに気付き、宇多津や丸亀など自分の住む町への興味を高めたり、さらに町探索をして坂出のよさを見付けたい意欲を高めたりする姿が見られました。



ステキ発見!



みんなのステキ、私のステキ

共創型探究学習CAN

共創型探究学習CANでは、生徒が自分の興味のあることを課題として設定し、探究していく学習活動です。

今年度は84個のクラスターができ、それぞれが違った探究テーマを立て、探究をしています。

3月までは、探究テーマを練り上げ、1年生の加わった4月から、本格的な探究がスタートしました。



探究深化シートについて話し合う

【CANの日Ⅰ】

CANの日Ⅰでは、いつものCANよりも長い時間、探究活動ができました。仮説を検証するためにデータをたくさん取ったり、校外に出て専門家のところに行きインタビューをしたりと、有意義に時間を使うことができました。声の大きさと聞き取りやすさの関係について探究しているクラスターは、フリーアナウンサーの方を学校にお招きし、より専門的なことを学ぶことができました。他には、視力についての探究をしているクラスターは眼鏡屋に行ったり、ウサギについて探究しているクラスターはウサギとふれあえるカフェに行って話を聞いたりして、自分の興味のあることを深く探究していました。



外部の専門家にインタビュー



中間発表

【中間発表】

CANの日Ⅰまでに探究したことをまとめ、中間発表を行いました。自分のクラスター以外の人に探究内容を聞いてもらうことが初めての機会だったので、緊張しているクラスターもありました。発表内容について、質問をされることで新たな視点が生まれたり、まだまだデータ不足だなと感じたりという振り返りも見られました。10月末には、最終発表があります。今度は保護者の方にも見てもらうことになります。10月の初めにあるCANの日Ⅱで最後の探究をして、発表会ではCANの集大成が見せられることを期待しています。

語り合いの時間

「語り合いの時間」では、答えのない問いに対して、参加者全員で問い、考え、語り、聞き合うことを通して、自らの考えを深め、自己の在り方を問い続ける生徒の姿をめざしています。生徒が語りたくなる環境を生み出せるよう、テーマの選び方や教師の関わり方を工夫し実践を行っています。

テーマ：「自由とは？」

- ・ 僕は、自由とは相手に迷惑をかけない程度に、自分のやりたいことをやることだと思います。僕たちは「自由じゃないな」って思うことは多いけど、「自由」なときは意外とたくさんあるということに気づきました。

テーマ：「ふつうと当たり前はどちらがうの？」

- ・ 初めは普通と当たり前はほとんど同じだと思っていました。でも、普通は自分の経験のうへ普通だけど、それが違う人もいることだと思います。…普通の意味は一つだけど当たりの意味は二つあるのではないかなと思います。



コミュニティーボールをもって自分の考えを語る

< 真の主体的な学びへ～子供の学ぶ意欲を大切に～ >

自主・自律

共生・協働

探究・創造

日常生活での自立

集団生活での自立

社会生活での自立

卒業後の豊かな生活に向けて

本校では、児童生徒が主体的に様々な活動に参加し自分らしく過ごす生活の実現をめざしています。児童生徒の学習意欲が高い校外学習や修学旅行の学習は、自己選択や自己決定、自分にあった方法で表明する力を身に付けるよき学びの場です。自らを表現しながらいきいきと学ぶ児童生徒の姿が将来につながるよう、教育活動に取り組んでいます。

小学部

6月に実施した学校での「延長・宿泊学習」で、自分が食べたい夕食を選び、自分で調理して食べました。事前に、選択肢であるレトルトメニューを味見し、自分が食べたいものを一つ選びました。当日は、選んだものを店で買い、調理して夕食の時間に食べました。このような事前学習を行うことで、児童はより「食べたい」と思えるものを主体的に選ぶことができました。さらに、自分で選んだものを食べ、「美味しかった」体験をすることで、自ら選択する楽しさや喜びというポジティブな実感につながったのではないのでしょうか。



当日の買物・食事・調理

中学部

年2回の校外学習では、事前学習でインターネットやガイドブック、先輩の話などを参考に、行きたい場所を話し合います。行き先が決まると、帰りの電車の時間や費用などの条件に合う昼食の店を探し、自分の食べたいメニューを決めます。6月には、2・3年合同で、JRと琴電を乗り継ぎ、「ラウンドワン高松」で思いっきり遊び、高松駅と高松オネで自分の選んだ昼食を食べました。生徒は自分達で計画できる校外学習を毎回楽しみにしています。このような活動を通して主体的な学びを支援し、余暇の充実につないでいきたいと思います。



行き先や昼食調べ

高等部

9月11～13日に2年生が沖縄へ修学旅行に行ってきました。世界文化遺産斎場御嶽（せーふあうたき）、万座毛、ハートロックなど、これぞ沖縄というところを周ってきました。事前学習では、行先をインターネットで調べました。生徒たちは用意された検索ワードやQRコードを使って、自分ができる方法で主体的に調べることができました。また、「アシストガイド」というアプリを活用して、旅行の行程を手元で確認できるようにしました。しっかりと事前学習を行ったことで、修学旅行先では、次の見学先や見学地の見どころなどを把握して、積極的に楽しむことができました。



万座毛で記念写真



事前学習

生涯にわたって学び続ける生徒の育成

―実感・自己理解としての「語り」が生まれる情意へのアプローチ―

6月7日（金）、令和6年度附属坂出中学校教育研究発表会が、晴天のもと盛大に行われました。当日は、県内外の幼・小・中・高・大学および教育関係機関などより500名を超える参会者をお迎えし、本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。今回の研究では、特に生徒の情意面に着目し、学習環境も含めて、教師がどう関わるのが、生徒の豊かな自己の学びの物語を紡ぐことにつながるのかについて追究しました。



「語り合い」の時間



国語



社会



数学



理科



音楽



美術



保健体育



技術



家庭



外国語



学校保健

シンポジウム・講演

演題 「授業づくりを語る

～子どもとともに主体的な学びの場をつくる～

講師 慶應義塾大学 教職課程センター 教授 鹿毛 雅治

登壇者 大西 正芳 研究部長、松添 啓子 教諭、
宮崎 浩行 教諭



研究大会を振り返って・・・

各教科等の研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践について多くの賛同の声が寄せられました。また、生徒たちの学びに熱中・没頭する姿にも高い評価をいただきました。これも本校生徒一人一人の頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご協力があったのことに深く感謝しております。そして、今大会の成果と課題も踏まえ、今後も本校の研究実践を全国に発信していきたいと思っています。

笑顔いっぱいの運動会！

玉入れや学園リレーでは、大勢の人の前で、競技をすることが初めての人でしたが、中学生が優しく手を引いて歩いてくれたおかげで、安心して参加することができました。また、年長児と小学校低学年のダンスでは、小学生と一緒に踊れることが誇らしく思えたようで、素敵な笑顔で踊ることができました。



玉入れ

広い運動場で元気いっぱい演技する子供たちを見て、成長を感じた嬉しい一日となりました。



学園リレー



年長児・低学年ダンス

絆を深め 個性を発揮

交流種目が多かった学園運動会では、小学生や特別支援学校の生徒と共に活躍する中学生の姿を見ることができました。特に3年生は、7月から特別支援学校の生徒と交流し、絆を深めてきました。当日は、

月に一緒に練習した競技に取り組み、共に汗を流し、一体感を感じることができました。

午後からの表現では、プロジェクトメンバーを中心に夏から準備練習してきた、学年ごとに個性のあるダンスを披露してくれました。



2年生ダンス The prettiest



部活動対抗リレー

学園みんながつながるわ・わ・わ

今年度は、「グレイテストオープニングショー」と称して、学園全員で合同運動会の始まりを表現しました。「THE GREATEST SHOWMAN」の曲に乗せて、子供たちが次々と運動会への意気込みをポーズで表現していき、プログラム1番から会場は熱気に包まれていました。

さらなる盛り上がりを見せたのは、「学園リレー」です。四校園の誕生月別代表選手がバトンをつなぎ、快走しました。選手はもちろん、応援する子供たちも全力を出し切り、競技後にはみんなで称え合う姿が見られました。

学園が一つになるこの感覚を忘れず、これからの学校生活でも、周囲の人を大切にする姿勢をもち続けてほしいです。



つなげ！バトン

全員で力を合わせた交流種目

今年も小学部は小学校4年生と、中学部は、中学校3年生と交流種目をしました。どちらもグループで力を合わせてボールを運んでいく競技です。

事前の交流学习で自己紹介をしたり、一緒にゲームや競技の練習をしたりすることで、仲良く落ち着いて取り組むことができました。

また、本番でもやさしく声を掛けてくれたり、手をつないでくれたりする友達がたくさんいて、どの子も笑顔で楽しく参加できました。みんなでボールを運んで、「きずなのわ」もつながりました。



小交流種目



中交流種目

心の支援部の取組

学校保健安全委員会
「子供の思いを聴くってどうしたらいいの？」

～話を聴くスキルを体験しよう～

7月5日（金）に小学校多目的室にて、幼小中合同学校保健安全委員会を開催しました。今回は、心の支援部のSC、SSWの先生方を講師として、子供の思いを聴くことや、思いを聴くときのスキルをあげることをテーマに開催しました。

小学校教員が親子の会話で「あるある！」という場面を寸劇で提案し、このような日常にある例を通して「忙しい時に、子供の話をどのように聴くのか」を考えていくことにしました。参加者の方からは、「忙しいけれども、子供が何を言いたいのかまず訴えを聴き、緊急事態なら作業を中断して、そうでない場合は作業を終えてから時間をとって話を聴くようにしている」や「家事をしているときなら、子供と一緒にやろうと声をかけ、家事をしながら話を聞いている」など、家庭によって実践されている様々な工夫を参加者の皆さんと共有することができました。

また、SCの先生から話を聴くときの具体的なテクニックである五つのポイント（アイコンタクト、よいリアクション、うなずき、笑顔、おうむ返し）「話の聴き方あいうえお」を紹介していただきました。この五つを踏まえて、参加者の方々にペアになっていただき、実践していくことで、話の聴き方のスキルを体験していただきました。初めは参加者の方々も緊張した面持ちでロールプレイをしていましたが、時間が経つにつれて笑顔が増えたり、笑い声が聞こえてきたりするなど、和気あいあいとした雰囲気、聴き方のスキルを体験することができました。

練習の後は、会話の工夫や日常生活で生かせる点について、意見交換や質疑応答が行われました。「兄弟姉妹げんかの扱い方や仲裁の方法」「子供たちにスマホを与える時の対応」など、多岐に渡る日常の困りごとへの対応方法が議論されました。参加者の方からは、SCやSSWの先生、教職員も「さすが！」と思うようなよい対応や意見をたくさんいただきました。ご参加くださった保護者の皆様ありがとうございました。



「わかる～！」の共有



「なるほど」お悩み解決テクニック

幼稚園

親子で楽しむ芸術の秋

香川大学教育学部の吉川暢子先生を講師に「子どもの世界展」を開催しました。「子どもの世界展」は、これまでの作品鑑賞の作品展とは違い、親子で一緒に表現遊びを楽しむ中で、子供の思いを感じたり表現に対する新たな気づきを得られたりできる行事です。

今年の赤組さんのテーマは「黒の世界」でした。魔法の粉（塩）でチョークを転がして色を付け、砂絵のようにボンドで描いた絵の上に粉をかけて楽しみました。最後にブラックライトを当てると、描いた絵が浮かび上がり、幻想的な世界が広がっていききました。



素敵な色だね



表現を楽しんで…

中学校

異文化コミュニケーション

コロラド州立大学からの留学生との交流授業を、5、6月に3日間行いました。生徒たちは、香川のお薦めとして「うどん」「丸亀城」を紹介しました。なかなかうまく伝わらない文化の違いの難しさを感じつつ、伝わった時の喜びを実感していました。

6、7月には、チェンマイの中学生、高校生20人との遠隔による交流事業を行いました。10月には、チェンマイの先生が来校しました。また、後期の交流事業も予定しています。

国際交流を通して、生徒たちは、異なる文化や自己の世界の広がりについて感じています。



留学生との交流



遠隔での交流

小学校

「附坂小ってどんなところ？行ってみよう」
～オープンスクール～

6月「学習参観日」と9月「夏休み作品展」に行ったオープンスクールでは、どんな小学校生活を送っているのかをたくさんの友達に見てもらったり、保護者の方に学校説明会を行ったりしました。

小学生の授業を見ていた子供たちは、「早くこの学校で勉強がしたい」と息を弾ませて話してくれました。また、保護者の方からも「学校の様子が伝わってきてよかった」という声をいただきました。

1年生が作ったお守りを大事そうにもって帰ってくれました。



わくわくが止まらない！



大切にしていることは…

特別支援学校

作業販売（やまもも良品）

7月12日に幸町キャンパスで、高等部生徒が「作業学習」の時間に作った製品の販売活動を行いました。当日は、購買意欲を高めるように商品の陳列を工夫したり、くつろぎコーナーを設けてコーヒーやお菓子を提供したりしました。また、学内を回ってチラシを配ったり、SNSに販売の様子をあげたりもしました。上田学長をはじめ、たくさんの職員、学生が来店してくれました。始めは緊張していた生徒たちも、次第に大きな声で挨拶をしたり、買い物かごをお客さんに優しく手渡したりすることができました。



上田学長来店！



来店ありがとうございました

松 韻 会

夕涼み会（幼稚園）

今年度の夕涼み会は7月6日（土）に行われ、昨年に引き続き土曜日開催ということでたくさんの親子で賑わう会となりました。

涼しげな浴衣や甚平を着ての盆踊り、保護者の方のご協力によるバザーや的当て、ヨーヨーといったゲーム、年長組と先生とでリズム室いっぱい作った「みんなのまち」を親子や友達と笑顔いっぱいにまわることができて、楽しい夏祭りの雰囲気を実感できた1日でした。



さかいで大橋まつり 総踊り参加（小学校・幼稚園）

8月3日（土）第59回さかいで大橋まつり総踊りに総勢180名で参加しました。

通算10回目の参加となり、新しい附属Tシャツも導入。大きな声で音頭をとり、元気いっぱいに踊る姿が評価され「元気いっぱい賞」を受賞しました。

天候にも恵まれ楽しいひと時でした。



ウェルカムカフェ 開催（中学校）

4月19日（金）の松韻会総会後に中学校家庭科室にて、新入生保護者の皆さまをお迎えして松韻主催のウェルカムカフェを開催しました。およそ60名の保護者の参加がありました。自己紹介から始まり、川田副校長先生と渡邊教頭先生も交えて、新しい学校生活にむけて疑問や不明なことなどの意見交換もできました。各テーブル（くじで席を決めました）で保護者同士の話も弾み、これから3年間で共に過ごす親同士の交流のきっかけになったのではないのでしょうか。



親 和 会

保護者研修会 わいわいランチタイム&救急救命法講習会

7月16日に文化部と研修部による研修会がありました。わいわいランチタイムでは、本校卒業生がお世話になっている事業所で作っているパンやお菓子を食べながら、子供たちのことや学校の様子について話をしたり情報交換をしたりして、文字通りわいわい楽しい時間を過ごすことができました。午後からは、日本赤十字社の方に、心肺蘇生法やAEDの使い方などについて実技を通して丁寧に教えていただきました。毎年、この講習会で人の命を守るために必要な知識と技能を学んでいます。保護者からは、いざという時に少しでも落ち着いて対応ができるように、これからも研修を受け続けたいという声が出ていました。



わいわいランチタイム



救急救命法講習会

編集後記

今年は米大リーグの大谷翔平選手が「50-50」を達成するうれしいニュースがありました。附属特別支援学校は今年創立50年目です。母校を愛し学校に関わる人々に感謝しながら、地域に必要とされる学校として、その役割を果たしていきたいと考えています。今後とも皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

発行年月日：2024年11月吉日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園